

平成27年度

葛飾区行政評価委員会 答申

平成27年9月

葛飾区行政評価委員会

答申にあたって

本委員会は、葛飾区が行政評価を本格実施した平成14年度以降、区が実施した施策及び事務事業の成果について区民の視点から評価を行い、今年で14年目を迎えることとなりました。

この間、行政評価委員会による評価を継続できましたのも、委員の皆様や事務局と一体となり、「葛飾区がよりよい街になるように」との想いで取り組んできた結果であると考えております。

今年度は、区で行われている行政評価制度の対象事務事業のうち、区が抱えている課題の効果的・効率的な解決のため、6事務事業について評価を行いました。

評価した事務事業の中には、今後のさらなる高齢者人口の増加により、介護需要が見込まれる中で、介護分野に携わる人材を確保していくことを目的とした「介護人材雇用促進事業」や、水元の自然保護、自然に親しむ学習活動の実施及び啓発を目的とした、「水辺のふれあいルーム運営」事業などの事務事業が含まれており、2つの分科会で慎重に審議を重ねてまいりました。

審議にあたっては、事務事業の所管課長からのヒアリングをはじめ、現場視察を通じて、事務事業を取り巻く現状を十分認識することにより、真に実効性のある評価を行うように努めてまいりました。

また、委員会の運営にあたりましては、議事要旨の公開や本委員会の活動内容の積極的な公開等にも努めてまいりました。

こうした取組が、行政評価委員会のもとより、区政に対する区民の関心を高めることになると考えております。

以下、別添のとおり事務事業に対する評価結果をとりまとめました。

貴職におかれましては、この評価結果を区民の声として受け止めていただき、ぜひとも、区民生活のさらなる向上のために役立てていただきたいと願っております。

平成27年9月3日
葛飾区行政評価委員会
会長 大石雅也

葛飾区行政評価に関する答申

平成27年7月1日、貴職から、「拠点回収促進」「介護人材雇用促進事業」「図書館ボランティア育成事業」「見本市共同出展事業」「赤ちゃんの駅事業」「水辺のふれあいルーム運営」の6事務事業につき、それぞれ意見を求められました。

これまで、慎重に審議を重ねてまいりましたが、このたび、別添のとおり結論を得ましたので、ここに提言として答申いたします。

平成27年9月3日

葛飾区長 青木 克徳 殿

葛飾区行政評価委員会

会 長 大石 雅也
小松原 昭芳
石井 幸子
江川 康夫
大山 安久
金子 昌男
佐々木 定治
谷本 綾乃
長谷 久枝
西山 恵子
町田 栄生
三宅 聡
村上 牧夫
望月 京子

目 次

第一分科会 活動経過	1
第二分科会 活動経過	3
葛飾区行政評価委員会の評価結果（第一分科会）	5
1 拠点回収促進	7
2 介護人材雇用促進事業	11
3 図書館ボランティア育成事業	15
葛飾区行政評価委員会の評価結果（第二分科会）	19
1 見本市共同出展事業	21
2 赤ちゃんの駅事業	25
3 水辺のふれあいルーム運営	29

葛飾区行政評価委員会 活動経過【第一分科会】

回数	日程	場所	内容	対象事務事業
全体会 (第1回)	7月1日(水) 午後2時～4時	庁議室	○区長より、委嘱 ○制度の概要・評価方法の説明	—
第1回	7月7日(火) 午前10時～12時	庁議室	○事業ヒアリング	①介護人材雇用促進事業
第2回	7月15日(水) 午後2時～4時	703会議室	○事業ヒアリング	②図書館ボランティア育成事業
第3回	7月30日(木) 午前10時～12時	かつしかエコライフプラザ・立石地区センター	○事業ヒアリング＋視察	③拠点回収促進
第4回	8月4日(火) 午前10時～12時	庁議室	○事業評価	①介護人材雇用促進事業
第5回	8月12日(水) 午前10時～12時	庁議室	○事業評価	②図書館ボランティア育成事業
				③拠点回収促進
第6回	8月18日(火) 午後3時～5時	庁議室	○答申内容の確定	①介護人材雇用促進事業
				②図書館ボランティア育成事業
				③拠点回収促進
全体会 (第2回)	9月3日(木) 午後3時～5時	庁議室	○答申内容の確認 ○区長へ答申	—

葛飾区行政評価委員会 活動経過【第二分科会】

回数	日程	場所	内容	対象事務事業
全体会 (第1回)	7月1日(水) 午後2時～4時	庁議室	○区長より、委嘱 ○制度の概要・評価方法の説明	—
第1回	7月10日(金) 午前10時～12時	水元かわ せみの里・ 西水元地 区センター	○事業ヒアリング+視察	①水辺のふれあいルーム運 営
第2回	7月16日(木) 午後2時～4時	庁議室	○事業ヒアリング	②見本市共同出展事業
第3回	7月23日(木) 午前10時～12時	庁議室	○事業ヒアリング	③赤ちゃんの駅事業
第4回	7月31日(金) 午前10時～12時	教育委員 会室	○事業評価	①水辺のふれあいルーム運 営 ②見本市共同出展事業 ③赤ちゃんの駅事業
第5回	8月6日(木) 午後2時～4時	庁議室	○事業評価	①水辺のふれあいルーム運 営 ②見本市共同出展事業 ③赤ちゃんの駅事業
第6回	8月17日(月) 午前10時～12時	庁議室	○答申内容の確定	①水辺のふれあいルーム運 営 ②見本市共同出展事業 ③赤ちゃんの駅事業
全体会 (第2回)	9月3日(木) 午後3時～5時	庁議室	○答申内容の確認 ○区長へ答申	—

葛飾区行政評価委員会の評価結果

(第一分科会)

- 1 「拠点回収促進」
- 2 「介護人材雇用促進事業」
- 3 「図書館ボランティア育成事業」

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	拠点回収促進	所管課	環境部 清掃事務所
-----------	--------	-----	--------------

項目		提言内容
実績状況	成果	<p>【古布の回収実績について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回方式による回収に加え、常設の回収ボックスを設置したことで、古布の回収量増加に寄与している。 ・巡回方式による回収は、月に1回2時間程度と、回収日及び回収時間が限られているため、古布が可燃ごみとして廃棄されている要因の一つとなっている。
	コスト	<p>【コストについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年4月から6月の古布の常設回収ボックスの回収量が、平成26年度の常設ボックスの回収実績を上回っていることから、効率的な回収が行われている。 ・コストを抑えて回収を行っていることは評価できるが、古布の一部が資源として回収されず可燃ごみとして廃棄されているため、余分な処分コストが掛かっていると言える。
今後の方向性		<h3 style="margin: 0;">拡充</h3> <p>【古布の回収方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回方式での古布回収では指定日及び指定時間に持ち込めない区民もいることから、図書館や地区センター等利便性の高い場所に古布の回収ボックスを増設するための予算措置を要望する。 ・古布の回収量を更に増加させるため、持ち込んだ古布の量に応じてポイントを付与する等、区民の資源回収意欲の向上を図る取組みを検討してはどうか。 <p>【周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源回収を促進していくためには、区民の環境に対する意識の向上が不可欠である。そのためには、小中学校での環境学習や職員出前講座を活用し、ごみ減量や資源回収の意義、資源がごみとして廃棄されている現状、資源として回収することでコストを抑制できること等を積極的に発信することで、区民の意識付けを行うべきである。 ・区民への周知にあたっては、区民の興味をひくようなインパクトのあるキャッチフレーズの使用や、ごみ減量・3R推進キャラクター「リー（Ree）ちゃん」の更なる活用が必要である。

平成27年度 行政評価委員会評価表

事業名	拠点回収促進	担当部	環境部
		担当課	清掃事務所

基本情報

概要	区民一人が身近な場所で資源のリサイクルに参加できる機会を提供するために、区内施設(保育園や地区センター等の区施設、区立公園など)に回収ボックスを設置し、古紙(紙パック)・ペットボトル・食品トレイ・古布・蛍光管・乾電池・インクカートリッジを回収し資源化に努めている。
活動内容	①【ペットボトル】私立保育園14ヶ所、区立保育園36ヶ所、地区センターや区役所、図書館等の区関連施設で22ヶ所の計72ヶ所で回収ボックスを設置し、区が委託した業者が排出量に応じ週1回から3回収し、集積所から回収したペットボトルと併せて資源回収業者へ売却している。 ②【食品トレイ】私立保育園7ヶ所、区立保育園20ヶ所の計27ヶ所で回収ボックスを設置している。 ③【紙パック】私立保育園14ヶ所、区立保育園20ヶ所の計34ヶ所で回収ボックスを設置し、食品トレイとともに区が委託した業者が週1回収し、食品トレイは再商品化委託、紙パックは古紙回収業者へ売却し、資源化ルートに乗せている。 ④【古布】平成20年10月より区立公園や地区センター等の15ヶ所において、巡回方式による古布回収を行っている。また、平成26年7月より区役所、かつしかエコライフプラザにおいて常設の回収ボックスを設置し営業時間内であれば随時回収を受け付けている。 ⑤【蛍光管・乾電池】地区センターや区役所、図書館等の22ヶ所の区関連施設では従来からのペットボトルに加え、平成21年7月より蛍光管・乾電池の回収ボックスを設置した。平成23年6月からはエコライフプラザにも回収ボックスを設置するなど、資源化に努めている。 ⑥【インクカートリッジ】平成23年6月より地区センターや区役所、図書館、エコライフプラザ等の23ヶ所の区関連施設でインクカートリッジの回収ボックスを設置した。

施策番号	1306	発生抑制を最優先にごみ減量に地域をあげて取り組めるようにします
事業の目的	区民に分別排出を定着させ、資源回収の協力率を上げるとともに、ごみ減量・リサイクルの意識高揚を図りごみ減量につなげる。	

実績情報

成果指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
					目標	177,800	177,400		
実績	164,518	162,501	174,251						
目標	—	—	Kg	目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	Kg	実績	—	—	—	—	—

実績の評価・分析
①拠点での資源回収量については、集団回収実施団体数の増加や資源リサイクルへの意識定着とごみ減量啓発に伴い、ここ数年(平成22年～25年)横ばいから減少傾向であった。
②古布について、平成26年7月より多くの区民が利用できる様に常設の古布回収ボックスを2か所設置した。その結果、2か所の回収量は平成27年3月末までに8,950kgに達し、古布全体では148,990kg(前年度実績 140,680kg)で前年度比+8,310kgと今まで拠点回収を利用しない区民が持ち込み、回収量増加に寄与しているものと考えられる。



活動指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
					目標	84	82		
実績	84	84	84						
目標	171	171	177	182					
実績	171	177	178						
目標	—	—	—	—					
実績	—	—	—	—					
目標	—	—	—	—					
実績	—	—	—	—					

方向性

評価してもらいたい点 ①あり方 ②課題	② 古布については、平成20年10月より、区立公園や地区センター等の15ヶ所において、回収車による巡回方式で回収を行っているが、回収日は月1～2日、回収時間も1日当たり約2時間と限定的である。そのため、平成26年7月1日より葛飾清掃事務所とかつしかエコライフプラザ内の2ヶ所において古布の常設の回収ボックスを設置し、営業時間内ならば随時受付が可能とし、利用者の利便性向上を図った。常設の回収ボックス設置により、ある程度回収量の増加に寄与したが、平成26年度のごみ性状調査では、燃やすごみ全体量(87,162t)のうち約3.8%(3,312t)が繊維であり、ごみとして処分されていく状況であるため、更に回収量を増やし古布の資源化を図る必要がある。
所管課 評価による 方向性	拡充 ①古布の拠点回収について、指定した日時に回収場所まで持ち込めなかった利用者や拠点回収を知らない区民が燃やすごみとして排出しているため、更なる周知を行い、古布回収の普及拡大を目指す。 ②今後の回収実績の推移を注視し、常設の古布回収ボックスの設置を増やし、資源回収量の増加と区民サービスの向上を図る。なお、増設にあたっては、利用者の利便性・安全性を考慮の上、設置場所を検討していく。

コスト内訳(決算)

項目	単位	25年度	26年度	コストの主な内訳	
収入	特定財源 国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	16	20	紙パック・ペットボトル売却収入
	一般財源(a)	千円	8,483	8,465	

事業費	直接事業費(b)	千円	6,939	6,905	
	消耗品費	千円	296	55	資源回収袋の購入
	委託料	千円	6,613	6,850	・蛍光管・乾電池の回収・保管業務委託 3,684千円
	修繕費	千円	30	0	・蛍光管・乾電池の運搬・処理委託 1,706千円
		千円			・食品トレイ・紙パック回収業務委託 1,294千円
		千円			・古布の回収・処理委託 166千円
		千円			
		千円			
人件費等	職員人件費(c)	千円	1,560	1,580	
	人件費	千円	1,560	1,580	
		人	0.20	0.20	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費(d)	千円	0	0	
	調整額(e)	千円	190	40	
減価償却費	千円				
金利	千円				
退職給与引当	千円	190	40		
(控)コスト対象外	千円				
トータルコスト(f)	千円	8,689	8,525		

項目	単位	25年度	26年度	コスト 主な 増減の 理由
単位の定義		サービス提供回数 (延べ回収回数)		
実績数値(g)		13,243	13,671	
単位あたり区単コスト(a/g)	円	641	619	
単位あたりコスト(f/g)	円	656	624	

古布常設回収ボックス設置により、サービス提供回数が増加したため。

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	介護人材雇用促進事業	所管課	福祉部 介護保険課
-----------	------------	-----	--------------

項目		提言内容
実績状況	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に「介護のしごと大発見（合同説明会）」の参加をきっかけに就業に結びついており、本事業の必要性は高く、更なる成果向上を目指す必要がある。
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・合同説明会の案内チラシの印刷製本費や会場設営の委託費など必要最小限のものであり、事業内容に対するコストは妥当である。
今後の方向性		<h3 style="margin: 0;">拡充</h3>
		<p>【合同説明会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同説明会に参加し就業に結びつけるには、合同説明会を知ってもらい、参加してもらうことが必要である。そのため、案内チラシを現在の広報掲示板への貼り出しやハローワーク、福祉の専門学校に送付するだけでなく、新たに自治町会の回覧板で周知するなど、様々な広報媒体を活用して周知の拡大を図っていくべきである。 ・合同説明会の案内チラシに、タイムスケジュールや会場の写真を掲載するなど説明会の雰囲気がわかる内容を盛り込み、より身近に感じることができるよう実際に説明会に参加し採用となった方からのメッセージを表示してはどうか。 ・チラシ・ポスターは、色使いなどで明るいイメージが持てるようにし、予算を増額しても内容を充実したものにすべきである。 <p>【ニーズの把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会に参加し採用となった方から聴取した「就職を決めた理由」等は、本事業を進めていく上で大変重要なものである。このことは、介護事業者にも情報提供するとともに、今後は、合同説明会参加者の意向等の把握に努め、ニーズに対応した取組みをすべきである。 <p>【PR活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の仕事は嫌厭されがちであるため、更なる高齢化社会を支える働きがいのある仕事であることなどを積極的にPRし、魅力ある職業であることを伝えていくことも必要である。 <p>【今後の人材確保対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、国においても法改正等、介護人材確保に向けた検討が行われており、その動向には注視する必要がある。また、将来を見据えた介護人材の確保には、人材確保対策に加え、定着支援対策も必要であり、他区で実施している資格取得に要する費用の助成なども参考に、効果的な対策に取り組むべきである。

平成27年度 行政評価委員会評価表

事業名	介護人材雇用促進事業	担当部	福祉部
		担当課	介護保険課

基本情報

概要	介護保険は、介護を必要とする人を社会全体で支えていく制度で、平成12年4月の運用開始以降、適時見直しを行い制度の充実を図ってきた。制度の充実と高齢化の進展に伴い、介護サービスへの需要が高まり、サービスを担う人材の確保が大きな課題となっている。そのため、平成26年度より「介護のしごと大発見」と銘打ち、葛飾区社会福祉協議会、ハローワーク墨田、葛飾区介護サービス事業者協議会と連携して、合同説明会を開催している。 第1回 日時 平成26年9月27日(土) 午前10時～4時 会場 テクノプラザかつしか 第2回(予定) 平成27年9月18日(金) 午後1時～4時 テクノプラザかつしか
----	---

活動内容	(1)対象 葛飾区介護サービス事業者協議会会員事業者及び学生、一般求職者 (2)周知 ①事前にハローワーク墨田及び葛飾区介護サービス事業者の事業所、大学・専門学校・高校等でチラシを配布 ②ハローワークのホームページ、広報かつしか (3)事業内容 ①開催会場に法人・事業者ごとにブースを設け、ブースを訪問した求職者に事業者が業務の説明を行っている。その後、求職者の希望があれば、事業所などの見学、面接、採用へとつないでいく ②求職者向けの就職支援講座を開催 ③希望者に託児サービスを提供する
------	---

施策番号	0801	福祉サービスを必要とする人が安心してサービスを利用できるようにします
------	------	------------------------------------

事業の目的	区内の介護事業者の人材の確保の機会を設けて、介護関係業務に係る労働力を確保し、介護保険サービスの質の向上を図る。
-------	--

実績情報

成果指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	就業に結びついた人数	合同説明会の参加をきっかけに就業をした人数	人	目標	—	—	14		
—	—	—	実績	—	—	5	—		
実績の評価・分析	平成26年度の開催では、チラシを10,000枚作成し、ハローワーク墨田、事業所などで配布を行ったが、参加者は延べ103人とどまった。合同説明会実施後に、説明会参加団体と事業内容の確認を行い、周知方法や開催日などの改善点が挙げられた。								



活動指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	参加延べ人数	合同説明会への参加人数	人	目標	—	—	100		
—	—	—	実績	—	—	103	—		
—	—	—	目標	—	—	—	—		
			実績	—	—	—	—		
—	—	—	目標	—	—	—	—		
			実績	—	—	—	—		

方向性

評価してほしい点 ①あり方 ②課題	①	介護サービスの質の維持・向上を図るため、今後も介護事業者などと連携を行いながら、介護人材を確保する取り組みを行う必要があるため、より良い周知の方策や介護事業者などとの連携方法、説明会の開催方法などについての検証を行う。
所管課 評価による 方向性	拡充	今後、さらなる高齢化の進展に伴い、介護サービスへの需要が高まることを見込まれることから、介護サービスを担う人材の確保・定着、育成を図り、サービスの質の向上に取り組まなければならない。「介護のしごと大発見」のさらなる充実を図るとともに、そのほかにも介護人材の確保、育成について支援策を講じる。

コスト内訳(決算)

項目	単位	25年度	26年度	コストの主な内訳
収入	特定財源	千円	—	事業経費における1/2相当を補助
	国庫支出金	千円	0	
	都道府県支出金	千円	435	
	その他	千円	0	
一般財源(a)	千円	—	1,215	

事業費	直接事業費(b)	千円	—	860	
	印刷製本費	千円	—	98	チラシ代
委託料	千円	—	636	会場設営	
使用料及び賃借料	千円	—	112	会場使用料	
通信運搬費	千円	—	14	チラシ郵送	
	千円	—	0		
	千円	—	0		
	千円	—	0		
	千円	—	0		
	千円	—	0		
	千円	—	0		
人件費等	職員人件費(c)	千円	—	790	
	人件費	千円	—	790	
		人	—	0.10	
	再雇用職員	千円	—	0	
		人	—	0.00	
	間接費(d)	千円	—	0	
	調整額(e)	千円	—	20	
減価償却費	千円	—	0		
金利	千円	—	0		
退職給与引当	千円	—	20		
(控)コスト対象外	千円	—	0		
トータルコスト(f)	千円	—	1,670		

単位あたりコスト	項目	単位	25年度	26年度	コスト増減の理由 平成26年度からの新規事業なので、コストの増減はない。
単位の定義	就業に結びついた人数				
	実績数値(g)	人	—	5	
単位あたり区単コスト(a/g)	円	—	243,000		
単位あたりコスト(f/g)	円	—	334,000		

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	図書館ボランティア育成事業	所管課	教育委員会事務局 中央図書館
-----------	---------------	-----	-------------------

項目		提言内容
実績状況	成果	<p>【ボランティア登録者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成講座の実施やボランティア団体「葛飾図書館友の会」の発足によって、必要とされるボランティア登録者数は一定程度確保されている。 ・学校等で活動している読み聞かせボランティアにも、図書館のボランティアとして活動してもらえるような働きかけも必要である。 <p>【ボランティア活動の継続性の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の事情等によって、従来の頻度で活動することが困難になった場合でも、活動者の意向を汲んで、活動が継続できるよう配慮していることは評価できる。
	コスト	<p>【経費の計上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ボランティアの育成にかかる経費が複数の事業に渡って計上されており、区民にとってわかりづらい。 <p>【人材育成の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの読み聞かせは、子どもの精神活動を高める重要な役割があるため、ボランティアの資質向上等、人材育成にも経費をかけて取り組む必要がある。
今後の方向性		<h3 style="margin: 0;">拡充</h3> <p>【ボランティア活動の継続性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが小学校を卒業し、学校での読み聞かせボランティアを離れる方でも、児童館や保育園、図書館等で活動を継続していけるように、活動の機会を提供する等、活動支援をしていくことが必要である。 <p>【ボランティアの資質向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの資質向上を図るために、ボランティア活動の意義や重要性、心構えについて等、人材育成につながる研修も充実させるべきである。 <p>【ボランティア活動にかかる実費負担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアには活動に要する交通費等を支給していないとのことだが、活動にかかる経費が発生していれば区から支給すべきである。 <p>【宅配ボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宅配サービス利用者から対応困難な要求がある場合も考えられるため、対応困難なケースは職員が対応する等、ボランティアの負担が過重にならないような配慮をすべきである。 ・宅配ボランティアのPRには、従来の周知方法に加えて、自治町会回覧板の活用や、図書資料貸出時にチラシを配付する等、効率的かつ効果的な周知方法を検討してほしい。

平成27年度 行政評価委員会評価表

事業名	図書館ボランティア育成事業	担当部	教育委員会事務局
		担当課	中央図書館

基本情報

概要	図書館では、乳幼児から高齢者、障害がある方など、誰もが本に親しめる環境を整備することを目的に、図書館ボランティアを育成している。そのため、講習会や講座を開催し、ボランティアの資質向上とボランティア人数の拡大を図っている。 講習会等を受講したボランティアについては、区の共催事業への参加や、ボランティア団体への入会を促して、ボランティア活動へつなげ、区民の読書活動の啓発に努めている。
----	--

活動内容	読み聞かせボランティア講座、パソコンを使った絵本づくりボランティア講座、ブックスタート公開講習会、音訳・点訳ボランティア養成講座等を開催し、様々なボランティア育成に取り組んでいる。 中央図書館の開館に伴い、平成21年6月にボランティア団体「葛飾図書館友の会」が発足した。「葛飾図書館友の会」は、図書館でのボランティア活動や学習会・交流会などを通じて、図書館がいつも区民のための場であるよう守り育て、また会員が生涯学習の場として共に学ぶことを目的として活動している。 ※ボランティア育成に係る経費は、複数の事業経費にまたがり計上している。経費名とそこに係る事業は下記のとおり。(別紙参照のこと) ①「図書館ボランティア育成事業経費」：点訳・音訳ボランティア養成に係る経費と「葛飾図書館友の会」が主催する講演会の経費を計上。 ②「読書活動啓発事業経費」：読み聞かせボランティア、パソコンを使った絵本づくりボランティア養成に係る経費を計上。 ③「子ども読書活動推進経費」：ブックスタートボランティア養成に係る経費を計上。
------	--

施策番号	施策	2102	多様な手段で、図書サービスを受けられるようにします
事業の目的	乳幼児から高齢者や障害がある方など、様々なニーズに対してサービスを行えるよう、ボランティアを養成する。		

実績情報

成果指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	ボランティア登録数	区立図書館にボランティア登録している数	人	目標	275	320	320		
ボランティア育成講座参加者数	講座参加者の延べ人数	人	実績	315	305	356	450		
実績の評価・分析	ボランティア登録者数	平成25年度に減少が見られたが、26年度には51名増加しており、内訳としては、特に読み聞かせボランティア、音訳ボランティアの登録者数が増加している。	目標	450	470	400	450		
	ボランティア育成講座参加者数	ボランティア育成講座の参加者数については、ほぼ横ばいで推移している。今後も、ボランティア育成を継続しながら、活動の場の情報提供も進めていく必要があると考える。	実績	458	476	474	450		



活動指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	図書館ボランティア活動回数	ボランティアとして活動した回数(延べ回数)	回	目標	800	1,700	1,600		
実績	—	—	—	実績	1,546	1,355	1,561	—	
				目標	—	—	—	—	
				実績	—	—	—	—	
				目標	—	—	—	—	

方向性

評価してもらいたい点 ①あり方 ②課題	① 区民の読書活動を啓発していくために、図書館ボランティアの活躍は大きいものであり、図書館ボランティアの育成にあたっては、様々なニーズに応えられるよう、効果的に行っていかなければならない。 図書館では、現在行っている読み聞かせ等のボランティアの養成や、新たな図書館サービスとして、来館が困難な利用者への宅配ボランティアの養成についても必要なものと考えている。 今後のボランティア養成にあたり、既存のボランティア養成・活用方法と新たな宅配ボランティアの養成について、行政評価委員の意見を取り入れ、様々な利用者が、より読書活動が進められるように検討していきたい。
所管課 評価による 方向性	拡充 ●ボランティアの育成を継続し、図書館等を支えるボランティア活動を支援するとともに、活動機会の充実に努める。 ●ボランティア活動を活性化していくために、ボランティア連絡会の開催等によって、個人で活動するボランティアが横の繋がりを深める仕組みづくりを検討する。 ●元気な高齢者がこれまで培ってきたスキルを活かせるように、図書館での新たなボランティア活動への参加促進を図る仕組みづくりに取り組んでいく。 ●新たにサービスを充実する宅配ボランティアについては、来館が困難な方等への利用をこれまで以上に促進するために、シニア世代など、ボランティア活動を希望する方への活動機会のPRを図り、養成の仕組みづくりについて検討し、早期の宅配事業の実施を目指していく。

項目	単位	25年度	26年度	コストの主な内訳
収入	特定財源	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源(a)	千円	8,266	8,128

事業費	直接事業費(b)	千円	466	228	
	報償費	千円	206	205	点訳ボランティア育成講座講師謝礼(H25音訳、H26点訳) 葛飾図書館友の会講演会講師謝礼
	食糧費	千円	13	13	ボランティア用お茶(ペットボトル500ml)等
	筆耕翻訳料	千円	9	10	葛飾図書館友の会主催特別講演会の開催に伴う手話通訳の派遣
	委託料	千円	238	0	
		千円			
人件費等	職員人件費(c)	千円	7,800	7,900	
	人件費	千円	7,800	7,900	
		人	1.00	1.00	
	再雇用職員	千円			
		人	0.00	0.00	
	間接費(d)	千円	0	0	
	調整額(e)	千円	950	200	
	減価償却費	千円			
	金利	千円			
	退職給与引当	千円	950	200	
(控)コスト対象外	千円				
トータルコスト(f)	千円	9,216	8,328		

単位あたりコスト	項目	単位	25年度	26年度	コスト 主な 理由 の 増 減
	単位の定義	ボランティアとして活動回数			
	実績数値(g)	回	1,355	1,561	
	単位あたり区単コスト(a/g)	円	6,100	5,207	
	単位あたりコスト(f/g)	円	6,801	5,335	

葛飾区行政評価委員会の評価結果

(第二分科会)

- 1 「見本市共同出展事業」
- 2 「赤ちゃんの駅事業」
- 3 「水辺のふれあいルーム運営」

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	見本市共同出展事業	所管課	地域振興部 商工振興課
-----------	-----------	-----	----------------

項目		提言内容
実績状況	成果	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出展企業数が目標値を超えているため、事業としては成熟している。 <p>【支援対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本事務事業の支援の対象となる企業数が、類似事業である「産業見本市開催事業」と比較して少ないため、不公平感がある。
	コスト	<p>【費用対効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1社あたりの商談成立件数が少なく、対象となる企業数が少ないことから、現状のコストを投入し続けるべきではない。 ・ 本事務事業に出展した企業にどの程度の利益があり、その結果、区にどの程度還元されたのかを検証する必要がある。
今後の方向性		<h3 style="margin: 0;">廃止</h3> <p>【事業の廃止、再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本事務事業は廃止し、類似事業を強化するべきである。 ・ 来場者の目的意識の違い等から機械要素技術展への出展も一定の効果が見込まれるため、今後、機械要素技術展に出展する企業に対しては「見本市出展等経費助成」の活用や別の補助制度を検討し、企業が独自に出展できるような体制を整えるべきである。 ・ 本事務事業において構築された展示会出展についてのノウハウをマニュアル化し、経験の少ない企業が展示会に出展する際に、案内できる資料を準備するべきである。 <p>【事業の進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区内企業の支援にあたっては、データにより実態を把握したうえで支援内容の検討を行うべきである。 <p>【PR活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区内産業の発展のため、PRをし続けていくことが重要である。「産業見本市開催事業」をはじめとして、これまで実施してきた事業について、引き続き区内外にPRしていくべきである。また、区内企業向けには、展示会出展についてのノウハウに関するマニュアル作成を行い、周知してはどうか。

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	赤ちゃんの駅事業	所管課	子育て支援部 育成課
-----------	----------	-----	---------------

項目		提言内容
実績状況	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、利用実績を把握できているとは言い難い。利用実績について調査をおこなったうえで、今後の改廃を検討すべきである。
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・現状は新規設置にのみコストがかかっているが、今後はメンテナンスを実施していくべきであり、利用実態を把握した上で、必要があればコストを増加させるべきである。 ・コストは効率的にかけられるべきであるため、利用されていない場所は廃止し、その分を利用されている場所のメンテナンスや新たに設置する場所の整備に回すべきである。
今後の方向性		<h3 style="margin: 0;">改善</h3> <p>【利用実態、要望の調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施には、アンケート調査等による利用実態の把握が不可欠である。その上で、施設の改廃について検討を行い、利用されていない場所は廃止し、利用されている場所にはコストをかけて拡充するべきである。また、新たな設置場所についても、利用者の要望を反映できるようにすべきである。 <p>【設置場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画一的に500m毎に設置するのではなく、利用頻度が高そうな箇所に重点的に整備していくべきである。また、施設内の設置場所についても、利用者の利便性を考慮して設置すべきである。 ・設置場所によっては、民間と連携して整備することを検討すべきである。 <p>【PR活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとっては、公共施設だけではなく、民間施設含めてどこに整備されているかという情報が必要なため、合わせて周知できるよう取り組むべきである。 ・紙媒体では情報が増える一方のため、情報を目にできる方とできない方の差が出てしまう。メールマガジンの登録等、子育て世代とつながる方法を導入し、地区別の情報や、子どもの月齢によって、様々な形で情報発信ができるよう検討すべきである。 <p>【メンテナンス、清掃】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おむつ交換台は不特定多数の利用があるため、定期的なメンテナンスや清掃が必要である。今後は、必要に応じてコストをかけて実施すべきである。 <p>【今後の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の設置基準にとらわれることなく、利用者の利便性を考え、おむつ交換台が設置されていれば誰でもトイレでも基準を満たしたとすることとするなど、考え方について検討すべきである。その際、必要に応じて公園課や民間施設との連携を図るべきである。 <p>【名称、表示のデザインの検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんの駅という名称では内容がわかりづらいため、名称変更を検討すべきである。 ・赤ちゃんの駅の設置に際しては、わかりやすい表示のデザインも必要であり、名称とともに検討を行う必要がある。

平成27年度 行政評価委員会評価表

事業名	赤ちゃんの駅事業	担当部	子育て支援部
		担当課	育成課

基本情報

概要	公共施設を中心とした施設内におむつ替えや授乳可能なスペースを確保する。 このことにより、保護者が乳幼児と一緒に外出する時のおむつ替えと授乳などを気軽に行えるような環境を整備する。
----	--

活動内容	①おむつ替えベッド・授乳イス・ポット等を備えたスペースを確保し、「赤ちゃんの駅」を設置する。 ②設置場所にのぼり旗やステッカーを表示することで赤ちゃんの駅の位置を区民に知らせる。 ③区のホームページ、広報かつしかや、『育児支援ガイドブック』、『かつしか子育てマップ』(外部サイト)等において、設置場所を広く周知する。
------	--

施策番号	0602	子育て中の家庭を支援し、安心して子どもを育てられるようにします
事業の目的	乳幼児を育てる保護者が安心して外出できる環境をつくる。	

実績情報

成果指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	一ヶ月の利用組数	平成25年度の一施設あたりの月平均利用組数の「23」に設置数をかけた人数	23組×(設置施設数)	目標	897	1,012	1,081		
—	—	—	実績	—	—	1,099	—		
実績の評価・分析	平成26年度より、より明確な成果目標とするため、実績を基準にした成果指標に変更した。								
	一施設あたりの月平均利用組数「23」を基準に目標値を設定しているが、人が集まりやすい商業地域等、地域的な区民ニーズの偏在もありうる。								



活動指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	設置箇所数	新規設置箇所数	箇所	目標	4	3	2		
—	—	—	実績	4	5	3	—		
HPや広報等での周知	周知の回数	周知の回数	回	目標	10	10	10	10	
	—	—	—	実績	5	11	11	—	
—	—	—	目標	—	—	—	—		
—	—	—	実績	—	—	—	—		

方向性

評価してもらいたい点 ①あり方 ②課題	① 「赤ちゃんの駅」は、おおむね500m毎に1ヶ所設置することを目標としているが、スペース等に余裕のある公共施設への設置はおおむね終了している。今後、スペース等に課題がある公共施設に対しては、個別に対応していく。 一方、人の集まりやすい商店街などには公共施設が少ないため、民間施設の活用や協働の視点から研究する必要がある。 例えば、既存の民間施設で「赤ちゃんの駅」の機能を有している場所についても「赤ちゃんの駅」として登録し周知していくための設置基準の研究などである。
所管課評価による方向性	拡大 ①イベント等への「赤ちゃんの駅」設置の働きかけや、設置した場合ののぼり旗の貸出し等により、これまで以上に周知を図る。こうしたことにより、区内全域に「赤ちゃんの駅」を普及させていく。 ②商業地域等、人の集まる場所への設置を進めるため、設置基準の研究を進めつつ民間施設と協議をしていく。

コスト内訳(決算)

項目	単位	25年度	26年度	コストの主な内訳
収入	特定財源	千円	0	0
	国庫支出金	千円	361	64
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	1,404	1,249
	一般財源(a)	千円		

事業費	直接事業費(b)	千円	985	523	
	消耗品費	千円	535	428	カーテン、のぼり、おしりふき等
	備品費	千円	450	95	おむつ交換台、授乳イス
		千円			
人件費等	職員人件費(c)	千円	780	790	
	人件費	千円	780	790	
	再雇用職員	人	0.10	0.10	
		千円			
		人	0.00	0.00	
	間接費(d)	千円	0	0	
	調整額(e)	千円	950	200	
	減価償却費	千円			
	金利	千円			
	退職給与引当	千円	950	200	
	(控)コスト対象外	千円			
	トータルコスト(f)	千円	2,715	1,513	

項目	単位	25年度	26年度	コスト増減の理由 既存施設の必要備品等の準備がほぼ終了し、新規施設の経費分となったため。
単位の定義	1ヶ月あたりの利用者数			
実績数値(g)	組	23	26	
単位あたり区単コスト(a/g)	円	61,043	48,038	
単位あたりコスト(f/g)	円	118,043	58,192	

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	水辺のふれあいルーム 運営	所管課	都市整備部 公園課
-----------	--------------------------	-----	----------------------

項目		提言内容
実績状況	成果	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の利用者数が年間で3万人を超えており、一定の成果は収めている。 ・自然講座参加者数は年々減少しており、対策を講じる必要がある。
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数に対してかかるコストとしては、現状の金額で問題ない。 ・かかるコストはほとんどが施設運営や保守点検等にかかるものであるため、現状に問題はない。
今後の方向性		改善
		<p>【施設の利用者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状でも一定の利用者数は確保できているが、平日の利用者数についてはまだ余裕があるため、講座の見直しや小中学生の見学等を検討することにより、改善していく余地がある。 ・現状ではハード面の充実をすることは困難だが、施設の老朽化に伴う改修の際には、利用者数を増加させることについても検討してはどうか。 <p>【自然環境の保護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無闇に利用者数を増加させることはせず、自然環境を守りながら改善していく必要がある。 <p>【自然講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人気のある講座は複数回実施する、初級編や上級編といった分類分けをする、大人向け・子ども向けに内容を分ける、コストをかけて有名な講師を招くなど、講座の実施方法を見直すべきである。 ・講座の実績やアンケート情報を分析し、定期的に見直しをかけていくことが望ましい。 <p>【PR活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校と連携し、もっと子ども達に見学に来てもらうべきである。 ・水元公園全体としての利用の中で、他の見どころと合わせて本施設をPRしてはどうか。 ・本施設の取組みに限らず、自然環境に対する取組みを紹介したり、子ども向けに特化したパンフレットを作成するなど、自然環境の維持について広めるための手法を検討してはどうか。 ・水元公園は都立公園であるため、かわせみの里についても都の広報紙で紹介してもらえるよう働きかけてはどうか。 <p>【事業の進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本施設の認知度を向上させる指標の設定や、本施設の利用により自然環境への意識に変化があったか等の指標を設定することにより、事務事業の改善に役立ててはどうか。 ・自然環境の保護については本施設に限らず、区全体でどのように取り組むのかという広い視野で検討するべきである。

